

川に親しむ「夏」

国土交通省 木曾川上流河川事務所 揖斐川第二出張所
 〒503-0813 大垣市三本木2-651-1 TEL 0584-81-1034
 URL http://http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/understand/ibi_02.html

■夏の夜は河川敷での花火

「第58回岐阜新聞大垣花火大会」（岐阜新聞社・ぎふチャン主催）が開かれた7月26日（土）、揖斐川河畔では浴衣姿のカップルや家族連れらが詰めかけ、真夏の夜空を彩る約3千発の花火を満喫しました。

市民らは「ドーン」と腹に響く低重音と、目の前に広がる色とりどり花火を堪能し、特大スターメインや1尺玉（10号）の連続花火、軽快なリズムに合わせて打ち上がるミュージック・スターメインの心地よい音に酔いしれ、大会の目玉である2尺玉（20号）による直径500mの光の大輪が上空を覆うと、観客から大きな拍手と歓声が沸き上がっていました。



写真：岐阜新聞提供（2尺玉）

■川を愛する住民の清掃活動

花火大会から一夜明けた27日（日）早朝、揖斐川堤防では、NPO法人西濃明るい社会づくり運動の皆さんなど、住民200人以上が清掃活動に汗を流しました。参加者の一人は、「年々、ゴミは減ってきている。少しずつモラルが向上してきているのでは」と語ってくれました。



■体験学習で学ぶ身近な川のこと

自然体験学習『カワゲラウオッチング!』

川の水生生物を調べて河川の水質を調査する「カワゲラウオッチング」が揖斐川及び杭瀬川で行われ、地元の綾里小学校（大垣市綾野）、小野小学校（大垣市小野）の児童が参加しました。子供たちは、タモとバケツを持ち、川の中へ入り、川岸付近でガサガサ調査を開始。石をひっくり返したり、足で川底を掘ったりと自由気ままな調査です。すくい上げたタモの中に入った「スジエビ」や石に活着した「カゲロウやカワニナ」を眺めながら、「これって何て言う名前なの？ 触っても大丈夫？」と、興味津々で現地指導員に確認していました。



揖斐川（小野小学校：6月16日）、杭瀬川（綾里小学校：5月28日）



出前講座 『川で安全に遊ぶために・・・』



川の安全利用について説明する出張所職員

カワゲラウオッチングに合わせ、水難事故防止に向けた啓発出前講座を行いました。講師を務めた揖斐川第二出張所の後藤事務係長は、川で特に注意する危険箇所や、流された際の対処方法などをアドバイス。「雨が降った翌日は、水かさが増え、流れが速まるので近寄らないでほしい」とした上で、川には大人と一緒にいく、危ないと感じた場合は遊びを止める勇気をもつ、などと呼び掛けました。

■きれいな川を守る住民の表彰

揖斐川堤防の清掃活動に、永年、取り組んできた川並連合自治会に対し、国土交通省中部地方整備局長から感謝状が贈呈されました。同自治会は10年以上にわたり、毎年、年2回の清掃活動を行っており、7月25日（金）、木曾川上流河川事務所で行われた贈呈式に、安藤進自治会長が出席し、大澤事務所長から感謝状が手渡されました。

【受賞の声】川並連合自治会長

以前、堤防草刈り後に、堤防斜面にモグラの穴が多数空いており、また、水が漏れている所を発見したときには大変驚いた。ゴミ拾いに参加した人達には、ゴミを拾うと同時に、堤防の変状箇所を見てほしい！と呼び掛け、永年、清掃活動に取り組んできた。今後も、地域を守る堤防は自分たちで見守っていくという強い意識を持ち、継続的な取り組みをしていきたい。



記念撮影（前列中央：川並連合自治会長）

■「洪水から街守れ！」 水防団や住民らによる水防・陸閘操作訓練 【大垣市】



水防工法（月の輪工）

・ 水害の危険性が高まる時季を前に、大垣市・大垣輪中水防事務組合による水防工法大会が5月25日（日）、同市野口地内の杭瀬川右岸で行われ、市内25分団による水防団員らが日頃の訓練成果を競いました。

また、洪水時に県道塩田橋から越水し、住宅側へ浸水被害が生じないように、暫定的に堤防の役割を果たす「陸閘」の操作訓練が、6月7日（土）深夜に行われ、地元の久瀬川町・静里町（第2）の両自治会、大垣市や国職員らが参加し、陸閘を速やかに閉める動作や水密性の確認を行いました。



静里町（第2）自治会による陸閘操作訓練の様子

■広域防災ネットワーク構築に向けた連携必要！ 【輪之内町】

・ 「川の日」の7月7日（月）、輪之内町は国土交通省木曾川上流河川事務所に対し、揖斐川沿川で計画している防災拠点や名神高速道路から揖斐川堤防天端道路に直接繋がるアクセス道など、国・地方自治体と連携し防災力の強化を目指した取り組みについて整備促進の要望を行いました。

木曾川上流河川事務所の大澤事務所長は、「洪水・地震等により大規模な災害が発生した場合、迅速な復旧活動や支援活動を行うための拠点整備や広域防災ネットワーク化の構築は必要。今後も関係機関と連携・調整しながら取り組んで参りたい」と認識を示しました。



要望事項を説明する輪之内町職員

～ 建設業の魅力発信！ ～ 大垣工高の学生を対象に『出前講座』を開催



講師の話に熱心に耳を傾ける生徒たち
写真：岐阜新聞提供

・ 揖斐川第二出張所は7月14日（月）、岐阜県立大垣工業高等学校（大垣市南若森町）の進路学習を支援するため、同校で出前講座を開催しました。建設工学科1年生40名が参加し、公務員と総合建設業の仕事の違いや、土木・建築業のそれぞれの仕事の流れなどを説明し、建設業の魅力について学びました。出前講座を終えて、同校建設工学科の天野教諭は「生徒たちは、ものづくりの楽しさを知り、今後の進路を選択していく上で参考になったのではないかと感想を述べられました。



『水』に関わる地名の由来について【安八町】

豆知識

動物に関係した建設現場の道具名について

・ 揖斐川第二出張所では、管内の大垣市・安八町の地名の由来について取り纏め、ホームページで紹介しています。西美濃地方は、地形的特徴から「洪水常襲地帯」と言われ、洪水の影響による土砂の堆積や流出、それに川筋の様子を伺わせるなど、「水」との関わりを表している地名が多くあります。その地名には、それぞれに依拠した根拠や理由があり、その当時に生きた人たちの息づかいを感じます。こうした歴史に触れ、地域の地名を知ることは、現代・未来を考える道標になるものと思います。

・ 建設現場には、動物の名前に関係した多くの機械や道具が使われており、その一例を紹介します。「建設機械＝動物」と思えば、建設現場の見方が変わり、愛着が持てるような気がしませんか？



【安八町牧の例】

まき まき
「牧」は、古く「馬置」と記され、馬を置く所であった。一方、対岸の大垣市馬之瀬は、馬洗いの川の瀬から生まれた地名と言われている。

出典：書籍「西美濃おもしろ地名考」より引用
切り絵（増田晴風氏 作）

トラロープ = 「虎（トラ）」



危険性を示す場所に、黄色と黒の縞模様が使われます。これは、虎の縞模様に似ていること。また、英語で引っ張ることを「トラクション」と訳することも関係していると言われています。



一輪車 = 「猫（ネコ）」



砂や資材を運ぶ手押しの一輪車のことを「ネコ」と呼びます。これは、細い通路や足場でも、猫のように上手く渡ることが出来るからだと言われています。

